

第2部 随筆(作文) テーマ「ごはんのにおい」

小中学生の部

佳作

毎日のごはん

長野県山ノ内中学校三年

青木優空

学校から帰ると毎日ごはんのにおいがする。片付けをして手を洗うと僕は「今日のごはん何」とお母さんに言う。そして夕食を食べる。朝も起きたらごはんのにおいがする。昼も部活から帰ってくればごはんのにおいがする。僕にはあたりまえの日常だ。苦手な食材がでてくると僕は残したりもする。

ある日インターネットでニュースを見ていたら、毎日ごはんを用意してもらえない人がいることを知った。彼らは自分で作るか買ってくるしか方法はない。毎日そのような生活を続けると健康状態も心も貧しくなっていく。家族で話しながら

ごはんを食べることはとても大切なことだと思う。これからのことを知り、毎日ごはんのにおいがすることはあたりまえではないことを知った。僕は今、とても元気で健康だ。それはお母さんが毎日栄養を考えながらごはんを作ってくれるからだと思う。

僕のお母さんは毎日仕事に行っている。とても忙しいスケジュールだ。時には疲れて具合が悪くなったり、寝込んでしまうこともある。それでもごはんはなんとかしてくれる。とても大変なのに好き嫌いをして食べなかつたり、文句を言っていた自分がみつともないと思った。それから絶対に好き嫌いはしないと決めた。

「ごはんのにおい」を嗅ぐことができるのはとても幸せなことだ。つらい時や悲しい時があっても僕を元気にしてくれる。今、こうして元気でいられるのもお母さんのおかげだ。僕はまだお母さんに感謝の気持ちを伝えることができていない。お母さんの前だと恥ずかしくて言えていない。でも今日は感謝の気持ちをしっかりと伝えたい。